

【学生によるESD支援活動】

奈良市立鼓阪北小学校 野外活動 支援報告書

英語教育専修2回生 櫛 乃里花

1. 実施日 平成30年10月2日（火）
2. 場所 奈良市青少年野外活動センター
3. 参加者 谷垣徹（大学院1回生）、櫛乃里花（学部2回生）
奈良市立鼓阪北小学校 教員、児童、複数名
4. 活動支援内容

平成30年10月2日、奈良市青少年野外活動センターにて奈良市立鼓阪北小学校野外活動が行われ、本学ユネスコクラブの学生2名が支援に参加した。事前指導として小学校を2度訪れ、キャンプファイヤーのスタンプ指導や歌の練習などを行った。当日は天候にも恵まれ、子どもたちと全力でキャンプファイヤーを楽しむことができた。

今回の活動支援より、以下の2点について考えた。第1に事前指導の重要性について、第2に子どもたちの前に立つ責任についてである。

第1の事前指導の重要性についてである。事前指導を行うことで3つのメリットが得られると感じた。一つ目は学級の様子がうかがえることである。事前指導を通して子どもたちの特徴や学級の雰囲気をつかむことができ、当日の支援をスムーズに行うことができた。二つ目は歌の練習の回数を十分に確保できることである。キャンプファイヤー中は大きな声で歌う場面がある。この時にいかに、子どもたちが全力を出せるかがキャンプファイヤー全体の雰囲気を左右する。今回の支援では、事前指導時は大きな声を出すのは恥ずかしい、かっこ悪いというような様子も見られたが、本番は心を一つに全力で歌う子どもたちの姿が見られた。三つ目は信頼関係を築けることである。担任の先生との打ち合わせや事前指導での子どもたちとのふれあいによって、互いのことを知り関係を徐々に育むことができた。特に子どもたちが自分の名前を覚えて呼びかけてくれたことが心から嬉しかった。以上のようなメリットがあるため、大学の授業の合間を縫ってではあったが事前指導に参加できて本当によかったと思う。

第2の子どもたちの前に立つ責任であるが、支援当日はキャンプファイヤーの前に子どもたちの心を落ち着けるための時間を確保し、注意事項などについて話した。子どもたちは真剣に私の言葉に耳を傾けてくれたが、同時に怖気づく自分がいた。自分が間違ったことを伝えたりその場しのぎの言葉を発したりすれば、おそらく子どもたちは気付くはずである。なぜなら、子どもはこちらが思っている以上に大人の言葉に注目しているからである。支援させていただいている学生の立場だが、子どもたちから見れば立派な大人であり、そのことを常に意識して一挙一動に気をつけなければならないと感じた。

以上2点が今回の支援を通して感じたことである。前年に続き2年連続の支援であったが、去年とはまた違った雰囲気のキャンプファイヤーを子どもたちや担任の先生との協力で作ることができた。野外活動でのキャンプファイヤーは、子どもたちにとっては一生に一度といっても過言ではないので、そのことを意識しながらどの支援にも誠意をもって取り組みたいと感じた。



キャンプファイヤーのようす